

## 平成30年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江 一弘・小田中 稔・児玉智明・佐藤 潤・高橋 直美
調査実施年月日	平成30年10月24日(水)
調査先 自治体名等	高知県室戸市
調査項目	「むろと廃校水族館」について
調査目的	廃校活用と地域振興策について調査すること
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 13,451人(H30.9.30現在) 行政面積: 248.18 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 平成18年3月31日に廃校になった、旧椎名小学校を改修して水族館として再利用し、活用するに至った経緯と、地域の活性化について視察を実施。</p> <p>旧椎名小学校は、予てより地元においてウミガメの保護活動や生態等の研究を進めていた、NPO法人 日本ウミガメ協議会から、博物館や水族館として利用したい旨の提案が出されていた。一方で、地元住民からも、集会所や避難所、高齢者の活動拠点として整備するよう要望が寄せられていた。これらのことから、平成27年6月に地域住民、民間団体、県及び市職員を委員とする「旧椎名小学校活用検討委員会」を設置し、検討、協議を重ねた。その結果、「室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「高知県産業振興計画アクションプラン」において、水族館として活用することが重要な地域振興策として位置付けられたことにより、平成28年9月に施設改修を行う予算が議決された。総事業費は約5億5千万円で、国と県から約2億4千万円、起債は過疎債で約3億円、残りが一般財源である。</p> <p>運営はNPO法人 日本ウミガメ協議会が指定管理者となっているが、市から委託費は受け取らず、自主的な運営を行っている。25メートルプールは、330メートルの管を敷設し、海水を直接循環させることにより、水の交換作業が必要ない屋外大水槽として活用している。教室などの学校施設や備品も、ほぼそのまま使用し、経費の削減を図っている。教室の中に3基の大型水槽と16基の小型水槽を設置しているが、目玉となるような魚種や希少性のある展示はない。しかし室戸で捕れる魚種を中心に、見せ方を考えた面白い展示となっている。展示魚類は地元漁師さんから販売できないもの、傷ついたものを譲り受けるものが多く、足が取れたズワイガニなどもそのまま展示されている。そのため、いつどの魚類が来るのかわからず、名前や説明文はラミネートフィルムで、入れ替えが簡単に出来るようになっている。またそれ以外は、図鑑を見て自分で見つけるという仕掛けも作っている。</p> <p>入館者数も4月のオープン以来、10月までに97,785名と堅調に推移し、授業の一環で訪れる小中学校や高校生の来館者が増えている。入場料は一般が大人600円、子ども300円、市民は大人500円、子ども250円。今後の事業展開にも積極的で、前向きである。本来の目的でもあるウミガメの保護活動にも力を入れており、その研究にも余念がない。</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	<p>当初は旧椎名小学校を水族館とすることに対して、地域住民はもとより、行政も議会も大反対で理解が得られなかった。加えて廃校というネーミングも地域に与えるイメージが悪いとして認められず、悪戦苦闘したようである。しかし、NPO法人の粘り強い説得と運動が実り開設に繋がった事例である。</p> <p>この事業は国と県の補助金に加え、過疎債を使うなどで実施可能となったが、それはあくまでも結果で、民間の熱い思いが行政を動かした事例として参考になる。本市でも、民間が廃校を含む行政施設の活用策を提案する例が見られることから、最低限の支援で最大限の効果を引き出す、新しい公共のあり方として検討に値すると考える。</p>

